

2021年度(令和3年度)

第5回福山市地域コミュニティ推進懇談会

○開催目的

「福山市地域コミュニティのあり方検討委員会」の報告を踏まえた多様な主体の取組を検証するとともに、各団体が連携、協働して地域コミュニティの再構築に向けた取組を推進するために開催しています。「人口減少時代の地域コミュニティのあり方報告書」で報告された内容について、できることから取り組んでいきます。

○委員（五十音順）

井上 誠	地域づくり塾修了者（御幸学区）
小葉竹 靖	福山市市民局長
佐藤 賢一	福山市自治会連合会会長
杉原 広昭	福山商工会議所青年部運営専務 ※欠席
道城 俊二	福山市PTA連合会幹事
橋本 哲之	福山市社会福祉協議会会長
平岡 顕治	中間支援組織（NPO 法人ひとまちスタジオ理事長）
廣田 要	福山明るいまちづくり協議会会長
藤井 眞弓	福山市女性連絡協議会事務局長
古谷 輝昭	福山市老人クラブ連合会副会長
真室 明美	福山市福祉を高める会連合会副会長
村田 政雄	福山市公衆衛生推進協議会副会長兼事務局長
吉田 美砂	福山市子ども会育成協議会事務局長
寄高 英樹	地域づくり塾修了者（光学区）
座長 渡邊 一成	福山市立大学都市経営学部学部長・教授

○アドバイザー

櫻井 常矢	福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザー 高崎経済大学地域政策学部教授
-------	--

2021年度(令和3年度)第5回福山市地域コミュニティ推進懇談会

○日時

2022年(令和4年)2月5日(土) 9:30~11:00

○開催方法

オンライン開催

※報告書は手交

○次第

1 協議事項

報告書(案)について

2 報告書提出

- (1) 概要説明(渡邊座長)
- (2) 報告書を手交
- (3) 市長コメント
- (4) 各委員コメント
- (5) 櫻井アドバイザーコメント
- (6) 渡邊座長あいさつ

・事務連絡



【懇談会の内容】

○報告書の概要について



【話し合う地域づくりの推進が人を育てる】

人口減少・少子高齢化が急速に進む地域社会にあって、地域で活動する各種民主団体や全市組織・企業・地域づくり塾から選出された異なる立場の当懇談会の委員は、全6回の懇談会を通じ、活動の中で出来ていることや悩みを出し合い、本音で議論を行った。

市内には地域になくってはならない活動をしている人や組織が数多く存在しているものの、これまで互いの活動を共有し、意見を言う場がなかった。

地域課題が複雑・多様化する現代社会にこそ、年代や組織の垣根を越えて人が繋がり、住民自らが地域の事業活動を整理・分析し、共感し合いながら信頼関係を築き、社会課題の解決に向かって、担い手を育成しながら、力を合わせる「話し合う地域づくり」の必要性を実感した。

【地域のデジタル化の推進】

コロナ禍が、地域コミュニティの希薄化という社会課題を浮き彫りにする中、デジタルで温かい地域コミュニティを築いていく取組も、市内各地で開始されている。

災害時や自治会活動の伝達手段としてSNSを使いこなす地域やシニア層の活動紹介、デジタルリーダーの育成の提案は、新たな支え合いの形を提示している。

【多様な主体が地域で支え合い、みんなで共に創るまちへの転換】

自治会、子ども会、PTA、老人会、女性会等、地域で活動する団体の加入率が低下する一方で、ボランティア・NPO活動に取り組む人は増加している。しかし、それぞれの団体だけの活動には限界があり、複雑・多様化する地域課題を地域に住む人自身が明らかにすることで、補完し合いながら、自分たちの住む地域を良くする活動に取り組むことができる。そのためには、各地域が求める支援を発信し、地域内外の意欲あるボランティア・NPOや企業・大学等の専門機関とつなぐコーディネートが「みんなでまちを育てる」活動には欠かせない。

【地域活動にやりがいを持って取り組める、行政支援策の再構築と地域の自立】

みんなで支え合う地域共生社会を築くため、行政には地域の実情を把握し、同じまちをつくる仲間として課題の解決に汗をかき、主役である住民の頑張りを支援できる施策（人的・財政的支援）への再構築を望む。

住民も行政に全てを頼るのではなく、地域資源を活用して自主財源を稼いだり、有償ボランティアを構築するなど、地域で仕組みがまわる持続可能な工夫を行い、「共にまちを創

り育てる仲間」としての行政と住民の距離感を縮め、これまで取り組んできた協働のまちづくりを、みんなで地域の新たな支え合いの価値を共に創る「共生・共創のまちづくり」へと、一步深化させていこう。

当懇談会での議論を地域や団体で持続的に実践し、複雑化した組織や事業内容の簡素化に取り組み、やりがいをもって地域活動ができる地域コミュニティへ再編していくためにも、行政には、地域課題を解決するための最善策と一緒に考え、地域に寄り添う職員の意識改革と施策の再構築を望む。

〇市長コメント



持続可能な地域コミュニティに関する議論は、市長就任直後から全学区・町で開催した車座トークにおいて、口々に訴えられた地域コミュニティの将来への不安に対する切実な声を受けて始めた。

まずは、「地域コミュニティのあり方検討委員会」で課題を整理していただいた。そして、やりがいを持って取り組める地域活動を行うためのコミュニティを再編するにはどんな組織、取組、仕組みが必要なのかを考えていただく場として、この懇談会をスタートさせたと記憶している。

先ほど、渡邊座長から協働のまちづくりを一步深化させ、「地域で支え合い みんなで共に創る 共生・共創のまちづくり」という方向性を打ち出していただいた。この報告書がまとまる前からいくつかの地域では様々な取組がスタートしたと伺っている。自ら地域コミュニティの活動の分析をして、担い手の育成をしながら、様々な取組をスタートさせていることを本当に心強く思う。今回いただいた報告書や御意見を踏まえて、今後は行政が、いただいた宝石の原石を磨くために汗をかいていく番。3月には、この報告書をしっかり読み込んだ上で行政案を取りまとめて、委員へ説明する。

その後、地域の皆様に説明をし、市民意見を伺いながら、2023年度から具体的な政策の形にして共生・共創のまちづくりのスタートをめざす。いただいた報告書をしっかりと大事に読みこんでいく。委員の皆様もそれぞれの立場、地域で、本懇談会で議論いただいた内容をできるものから実践していただければありがたい。

何かを待つのではなく、自らが動く。お互いそのような関係で、福山市を隅々まで活力に満ちた地域にしていきたい。最後に、これまでの皆様の御労苦と報告書をいただいたことに感謝する。

○各委員コメント

委員名	コメント
井上 誠 委員 (地域づくり修了者 御幸学区)	地域コミュニティ推進懇談会を通して、地域活動は負担ではなく楽しむことだと感じた。また、実践することを大切に、以前からしている事業だからするのではなく、一つ一つの事業を見直すことから始めた。情報共有方法も見直し、LINE のオープンチャットを活用した災害時の連絡方法の構築に向けて実践している。学区独自のホームページ作成も行い、地域の若い人にも地域活動を担っていただけるような学区にしていきたい。
佐藤 賢一 委員 (福山市自治会連合 会 会長)	自治会のあり方について、長い間議論させていただいた。加入率や高齢化などの問題はありますが、今年度、公民館・交流館に Wi-Fi 設備が整備され、自治会連合会全体でリモート会議ができるようになった。私自身5年前から、電子自治会を提言していたが、実現できるような環境が整った。先日の役員会も、リモートで実施し、約3割の方が自宅で参加し、コロナ禍で非常に進歩したと思う。前身の会議から本懇談会の3年にわたる会議は非常に有意義な会議だったと感謝している。
道城 俊二 (福山市 PTA 連合会 幹事)	福山市では、子どもたちが地域に誇れる行事が大変少ないと感じている。とんどを小学校の授業として取り入れ、地域の方々と協力して練り歩くとんどを作成し、その成果を多くの人に見ていただく PR イベントを行う。福山とんどを全国、世界の方が見たいというものにし、小さなときから関われる行事となれば地域に愛着がわき、地域コミュニティの活性化につながるのではないかと感じている。この懇談会に参加していろいろな意見交換をして成長することができた。
橋本 哲之 委員 (福山市社会福祉協 議会 会長)	本懇談会は、地域共生社会の実現、ともに生きる豊かな地域社会づくりをめざす社会福祉協議会の方向性と概ね合致するものだったため、行政部分に対しては、かなり厳しい意見も言った。コロナ禍で地域には厳しい現実が多く、顕在化している。これらにしっかり対応していくことが喫緊の課題。地域で何が起こり、何に困り、それはなぜか、どうなったら助かるのか、地域や当事者に寄り添い、共に考えていく支援に転換していくことが大切。行政と一緒に伴走型支援に取り組んでいきたい。
平岡 顕治 委員 (中間支援組織 NPO 法人ひとまちスタジ オ 理事長)	中間支援組織という形での参加ではあったが、ICT の推進とまちづくりという関係性をどのように実現したらよいか考えながら参加していた。地域の方々の声が生で聞けたことは非常に良かったと思っている。人手不足や後継者がいないということがリアルに分かったこと、そしてこれから先どのようにしたら良いかとい

	<p>う課題意識を皆さんが高く持っておられたことが非常に良かったと感じている。今後は、頭でっかちになりがちな構想も具体的に地域の方々と一つひとつ活動できたらいいと感じた。</p>
<p>廣田 要 委員 (福山明るいまちづくり協議会 会長)</p>	<p>福山明るいまちづくり協議会も長い歴史を持っているが、組織や活動などを見直す時期だと思っている。各学区のまち推を通じて、アンケート、ヒアリング等を行い、いろんな意見をいただいた。今年度中に協議会の中で、今後どうするかを議論していきたい。方向性とすれば、スリム化してメリハリのついた活動をしていくということが大筋だと思っている。やりがいを持って地域に貢献したい、役に立ちたいと思ってコツコツと活動されている方がたくさんおられるので、これからも、地域での繋がりができて、無理なくやりがいを持って続けられる事業活動を継続していきたいと思っている。</p>
<p>藤井 眞弓 委員 (福山市女性連絡協議会 事務局長)</p>	<p>本懇談会に出席する中で感じたのは、活動には楽しさが必要。面白さややりがいがないと、地域活動に意義が見いだせないということをつくづくと感じた。また、団体の垣根を越えて、いろんな人とつながっていく。そして、意見交換をしたり、共感しあいながら活動を行う必要性を深く感じた。</p>
<p>古谷 輝昭 委員 (福山市老人クラブ連合会 副会長)</p>	<p>本懇談会に参加して、各種団体のいろんな課題を聞いて、課題を共有することができた。皆さんと話し合う中で、人口減少・高齢化が今後進んでいく中で、これからは「みんなで支え合い、みんなで共に創る、共生社会の実現」が大事だと考える。今後は、議論した内容を地域に持ち帰り、各種団体の垣根を越えた横のつながりを大切にしながら、継続的な活動を実践したい。</p>
<p>真室 明美 委員 (福山市福祉を高める会連合会 副会長)</p>	<p>本懇談会や前身の会議に参加する度に、立場の違う方の意見を聞いて非常に参考になるが、これを地域の隅々にどのように反映していけばよいかということをもとに悶々と考えていた。数々の団体の役員として自分が一人で多忙な毎日を送るのは非常にまずいと感じながら過ごす中で、次の担い手へ育成、バトンタッチのやり方を櫻井先生から助言していただいた。次の担い手を育成するためには、信念を持って取り組んでいる方を意識して呼び込んでみようと思う。また、コロナ禍で地域活動は変換期に入ったため、今までのやり方、活動を一新してみる大きな機会となると思う。このようなことを考慮しながら、次の担い手や地域で活動するみんながやってよかったという活動に取り組むために本懇談会の経験を活かしていきたい。</p>
<p>村田 政雄 委員 (福山市公衆衛生推)</p>	<p>公衆衛生推進協議会は健康と環境の分野で取り組みをしているが、活動を理解していないまま委員に選任され、スムーズに活動</p>

進協議会 副会長兼事務局長)	に移れない課題がある。選任時、町内会の付随的な役割として選任される場合もあり、専任の委員を置いてほしいと願っている。活動に関して行政と密な連携が出来ていない部分もあり、そこが活動が周知されない要因と考えている。今後も精一杯頑張るのでよろしくお願いします。
吉田 美砂 委員 (福山市子ども会育成協議会 事務局長)	子ども会としては、今後の子ども会をどうやっていくか、今までどおりの子ども会ではなく、もっと新しいこと、もっと子どもに寄り添ったやり方をこれから考えていかなければいけないと考えている。その中で皆さまのお力を借りながら頑張っていきたいと思っているので、協力をよろしくお願いします。
寄高 英樹 委員 (地域づくり修了者 光学区)	やらなければならないことはたくさんあるが、それが出来ないのはなぜかと考えると、核になる人がいないことが一番大きな問題だと思う。大切なことは、何をやるかではなく誰とやるか。そのためにコミュニケーションを取り、関係性が出来た仲間ですこから湧いてくる意見やアイデアを実践していくことが大事だと感じている。このメンバーで、地域のために何かやりたいという雰囲気が出るような取り組みを最初にやっていきたいと思う。

○櫻井アドバイザーコメント



櫻井 常 矢 アドバイザー
(高崎経済大学 地域政策学部 教授)

【再構築の動きは始まったばかり】

今回の報告書で共生・共創のまちづくりがテーマとなり、これからの目標として大変ふさわしいものとなったが、福山市は、共生・共創のまちづくりをスタートさせるその前の段階にある。行政として共生・共創の枠組みを実現していくためには、福祉、社会教育（公民館）、協働のまちづくりというこの3者の連携が重要である。2018年度にアドバイザーに就任した当初、各支所の地域振興課などによるまちづくり推進委員会への支援が充分機能していない状況だったが、モデル事業やまちづくりミーティングなどを通じ、協働のまちづくり課とともに各地域振興課も今年度から本格的に動き出し、話し合いを中心にしたまちづくりがスタートしている。つまり、協働のまちづくりを再構築する動きはようやく始まったばかりである。行政として、まずはそれぞれの課が果たすべき地域支援の業務をきちんとできるようになることが肝要である。部局間連携はその先にある。

全国的な動向としても、持続可能な地域づくりを進める上で、公民館は地域づくりの試金石とも言える重要な場所である。しかし福山市の場合、公民館がこうした役割を發揮できていないケースや、講座等の公民館事業を実施するにもほとんど予算がついていない状況がある。まずは、地域コミュニティの再構築に向けて公民館が役割を果たすために、公民館が本来すべきことは何か。あるいは社会教育とは何かなど、本来業務への認識と実践を再度組み立てることを目的に公民館職員の研修を通じて進めている段階である。くり返しになるが、

その先に福祉，社会教育（公民館），協働のまちづくりの3者の連携があり，これによって共生・共創のまちづくりが本格化していくものと捉えるべきである。

【行政の枠組み先行型への警鐘】

行政が地域のこれからの言わば配慮して，補助金の見直しやまちづくりサポートセンターの再整備などを行おうとしているが，どうしても枠組み先行型になってしまっており，市民の実践が追いついていないことが気になっている。ハード整備等の行政事業はそれでも良いかもしれないが，地域コミュニティだけはそこに暮らすひとたちが，このままではいけないという思いに立ったときに初めて行政は機能するものである。市長コメントの中でもありましたが，市民の皆さんが自ら動くということがまずは大切である。市民の問題意識が先に来ることが前提であり，行政としてまずそれを促す努力を重ねる必要がある。福山市の現状として，こうした市民の問題意識や持続可能な地域づくりへのノウハウの醸成を進めている真っ只中にありながら，それよりもハード的な仕組みが先行しつつあることを大変危惧している。それでは，これまでの福山市行政のやり方と変わらないのではないか。まずは地域市民の動きが先にあって，それを行政が支えるという流れを大切にしていって取り組むべきである。

【持続可能な地域コミュニティづくりに真剣に取り組む】

日本の地域づくりは，過去20年間で2回の波があった。第一波は，いわゆる平成の大合併のタイミング。福山市がまちづくり推進委員会を始めたのもこの時期と重なる。全国の動きとしては，合併によって行政サービスが遠のいてしまう，あるいはそれぞれの地域性が失われてしまうのではないかとということから，地域が自らの力で文化や歴史を大切にしていこうという環境整備を進めようとしたことが背景にある。一方で，合併によって地域性を失ってはいけないという理由によって，どうしても祭り等のイベント中心型の事業になってしまった。

第二波は，2015年以降，高齢化と人口減少が現実味を帯びる中で担い手不足などの大変な状況が見えてきたことに起因する。このような状況下で，地域コミュニティをどう持続していくのが課題であり，2006年のまちづくり推進委員会のスタート時点とはかなり異なる目的から地域コミュニティが注目されていることをご理解いただきたい。その意味では，まちづくり推進委員会はもとより，委員の皆様が所属している民主団体のいずれも，時代の状況に対して変わっていかねばならないタイミングに来ている。一方で，この2つの波の経過を踏まえ，その見直しや議論をきちんと行っている自治体は全国でも本当に少ない。福山市が進めているこの推進懇談会を通じた一連の議論，あるいはモデル事業をはじめとする地域での実践は，全国の動向に照らしてもいずれも貴重な取り組みと捉えて良い。

〇まとめ



渡邊一成 座長

福山市立大学
都市経営学部 学部長・教授

【持続可能な地域コミュニティの推進はこれから】

本懇談会の報告書を市長に提出して、議論は一区切りついた感じはするが、持続可能な地域コミュニティの推進はまだこれから、いよいよ本番。地域コミュニティ形成モデル事業に取り組む学区などでは、持続可能な地域コミュニティの推進が模索されてきている。今後は、こうした取組が市内の全学区に広がり、真に元氣な福山の未来づくりに取り組まれていくことを期待し、私自身も微力ながら引き続き支援させていただきたい。

【福山市地域戦略】

地域が抱える課題は、多岐にわたることは言うまでもない。福祉、交通、防犯防災、あるいは地域活性化に向けた取り組みなど、様々な課題への解決が地域に求められているが、これまでこうした地域に抱える課題に対し、行政は福祉、交通、防災あるいは教育委員会など各部局ごとに対応されてきている。しかしながら、課題が複雑化あるいは複合化してきていることから、その解決方法もひと工夫必要であり、また、複数の課題に一括して取り組む、総合政策のようなものが必要だと私は認識している。櫻井先生の方からも、縦割りの話がありましたが、そういった意味ではそこを横につなぐことが必要。こうした状況を踏まえて福山市では、これまで縦割りで取り組んできた地域課題解決に向けた取組を、連携して、横串をさして取り組むべく、福山市地域戦略のパブリックコメントが、現在、行われている。

私も、次のような意見を出させてもらった。従来、各部局が対応してきている地域対応、いわゆる縦割りで地域対応を、地域戦略として一つの計画にまとめ、地域を切り口とした包括的な取組、つまり横串を刺した対応として、事業等を示し、個性豊かで活力ある地域づくりに取り組む基本的な指針となる地域戦略は、人口減少・少子高齢化や財政状況等の社会経済情勢が一層厳しくなる福山市の将来の姿を考えると、非常に有益な戦略であると高く評価したいと思う。そのため、今後の地域づくりについては、本戦略に基づき、行政においては部局間の連携をとりつつ、包括的・総合的に地域支援に取り組まれることを期待するとともに、市民等においては、本戦略の趣旨をしっかりと理解する中で、行政頼りの考え方を改め、真に主体的に前向きな姿勢で、地域づくりに取り組んでいく、つまり自分たちの地域は自分たちで作っていくことへ変容していくことを期待する。

【持続可能な地域コミュニティを育むためのポイント】

本懇談会においては、持続可能な地域コミュニティを育むためのポイントとして、「地域で支えあい」、「みんなで共に創る共生・共創のまちづくり」、「人を育てる地域社会へ」という3点にまとめられている。引き続き、各地域においては、地域課題の解決に向けた各種の取組を自主的・主体的にそして前向きに取り組んでいただくことを期待するとともに行政においては、地域課題の解決に総合政策として取り組んでいくことを期待する。